

# 福島200 5連覇

## 陸上日本選手権 宮内(帯農高)円盤投げ7位



女子200mは福島が力の差を見せつけ、5連覇を達成した。スタートから勢よく突っ込み、前半で2位以下を大きく引き離す展開。後半に伸ばし切れず、狙って

女子200mで優勝した福島千里(左) 27日、新潟・デンカビッグスワンスタジアム

## 誕生日に偉業 福島

「まずまずよかった」  
この日が27歳の誕生日。自らを祝う優勝となったが、「2冠はしっかり取りたい。そこまでは気を抜かないで走りたい」。28日の100m決勝に照準を定め、満足感とは無縁だった。

走っている感覚がある」とた。確立した技術への揺るがない自信があった。5月に行われた世界リレー大会では、400mリレーで日本の銅メダル獲得に貢献。最近の国際大会ではリレーでの活躍が目立っていたが、徐々に個人種目で戦う機会をつかんだ。「決勝を目指せるような勝負をしたい」。円熟味を増したベテランが力を込めた。

陸上の日本選手権第2日 帯農高出)が52秒04で7位、慧(葦土通)もう位に入り、は27日、世界選手権(8月、女子砲丸投げ決勝は阿原典子(福井陸協)大塚大、帯新瀨・デンカビッグスワンスタジアムで行われた。女子200mは福島千里(北海道ハイテクAC)帯農高出)が23秒23で5連覇し、世界選手権代表に決まった。男子円盤投げ決勝は宮内優(モンテローザ)日大、

円熟藤光 Vさらう 男子2000  
▽:本命視された高瀬や新進気鋭の若手を抑え、29歳の藤光が男子2000mの優勝をさらった。自己新記録の20秒32で世界選手権切符。「ほっとしている」と勝利の余韻に浸った。

前半は周囲の出方をうかがいながらのレース運び。カーブを曲がったあたりでギアを上げ、一気にリードを広げた。「直線に入った時に確信できるぐらいの位置だった」。好記録を狙って最後は力みが出たが、鮮やかな快勝。右手人さし指を天に突き上げた。